【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年1月9日(2014.1.9)

【公表番号】特表2013-511548(P2013-511548A)
【公表日】平成25年4月4日(2013.4.4)
【年通号数】公開・登録公報2013-016
【出願番号】特願2012-540104(P2012-540104)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　14/765　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　 5/09　(2010.01)
Ｃ０７Ｋ　 1/16　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　14/09　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　14/765
Ｃ１２Ｎ　 5/00　２０２Ｕ
Ｃ０７Ｋ　 1/16
Ｃ０７Ｋ　14/09
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｐ　35/04

【手続補正書】
【提出日】平成25年11月14日(2013.11.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
繊維状タンパク質および医薬上許容される賦形剤を含む、対象における癌転移を抑制するための医薬組成物。
【請求項２】
繊維状タンパク質が繊維状アルブミンを含む、請求項１に記載の医薬組成物。
【請求項３】
繊維状タンパク質が繊維状ヒト血清アルブミンを含む、請求項１に記載の医薬組成物。
【請求項４】
繊維状タンパク質が口蹄疫ウイルスの繊維状カプシドタンパク質を含む、請求項１に記載の医薬組成物。
【請求項５】
癌を患っているほ乳類を治療するための、治療有効量の繊維状ヒト血清アルブミンおよび医薬上許容される担体を含む、医薬組成物。
【請求項６】
癌が、α５β１および／またはαｖβ３インテグリンの過剰発現によって特徴づけられる、請求項５に記載の医薬組成物。
【請求項７】
以下の段階：
繊維状ヒト血清アルブミンを製造すること；および

治療有効量の繊維状ヒト血清アルブミンを医薬上許容される担体と混合すること、
を含む、請求項３に記載の医薬組成物を製造するための方法。
【請求項８】
繊維状ヒト血清アルブミンを製造する段階が、以下の段階：
界面活性剤溶液へヒト血清アルブミンを溶解すること；
溶解したヒト血清アルブミンを分子量７０ｋＤａ以上のタンパク質を分離するための細孔径を備えるゲル濾過カラムへ注ぐこと；および
カラムからヒト血清アルブミンを溶出すること、
を含む、請求項７に記載の方法。
【請求項９】
ヒト患者における癌を治療するための、請求項１に記載の医薬組成物。
【請求項１０】
治療有効量の繊維状タンパク質および医薬上許容される担体を含む、対象における癌を治療するための医薬組成物であって、対象における癌転移を減少させるための、医薬組成物。
【請求項１１】
繊維状タンパク質が繊維状アルブミンを含む、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１２】
繊維状タンパク質が繊維状ヒト血清アルブミンを含む、請求項１１に記載の医薬組成物。
【請求項１３】
繊維状タンパク質が口蹄疫ウイルスの繊維状カプシドタンパク質を含む、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１４】
繊維状タンパク質がキメラタンパク質である、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１５】
対象がヒトである、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１６】
癌が、α５β１および／またはαｖβ３インテグリンの過剰発現によって特徴づけられる、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１７】
静脈内注射、皮下注射、腹腔内注射、動脈内注射、筋肉内注射、腫瘍への病巣内注射、腫瘍に隣接する病巣内注射、静脈内注入および動脈内注入からなる群から選択される投与経路によって対象に投与される、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１８】
繊維状タンパク質が、以下の段階：
溶解したタンパク質を供給するために界面活性剤溶液へタンパク質を溶解すること；
溶解したタンパク質を分子量７０ｋＤａ以上のタンパク質を分離するための細孔径を備えるゲル濾過カラムへ注ぐこと；
溶出液を供給するためにゲル濾過カラムから溶解したタンパク質を溶出すること；および
溶出液から界面活性剤を除去すること、
を含む方法によって製造される、請求項１０に記載の医薬組成物。